

心の栄養剤No124 【人生のテーマ】

忘れられない詩がある。

十五歳の重度脳性マヒの少年が、その短い生涯の中でたった一篇命を絞るようにして書き残した詩である。

ごめんなさいね おかあさん ごめんなさいね おかあさん

ぼくが生まれて ごめんなさい ぼくを背負う かあさんの

細いうなじに ぼくはいう ぼくさえ 生まれなかったら

かあさんの しらがもなかったろうね

大きくなった このぼくを 背負って歩く 悲しさも

「かたわな子だね」とふりかえる つめたい視線に 泣くことも

ぼくさえ 生まれなかったら ありがとう おかあさん

ありがとう おかあさん おかあさんが いるかぎり

ぼくは生きていくのです

脳性マヒを生きていく やさしさこそが 大切に

悲しさこそが 美しい そんな 人の生き方を

教えてくれた おかあさん おかあさん

あなたがそこに いるかぎり

『致知』2002年9月号で、向野幾世さんが紹介した詩である。
作者は山田康文くん。生まれた時から全身が不自由、口も利けない。
通称やっちゃん。そのやっちゃんを、養護学校の先生であった向野さんが
抱きしめ、彼の言葉を全身で聞く。向野さんが言う言葉が、やっちゃんの
言いたい言葉だったら、やっちゃんがウインクでイエスのサイン。ノーの
時は舌を出す。気の遠くなるような作業を経て、この詩は生まれた。
そしてその二ヵ月後、少年は亡くなった。
自分を生み育ててくれた母親に報いたい。その思いがこの少年の人生の
テーマだったといえる。

短い生涯ながら少年は、見事にそのテーマを生ききり、それを一篇の詩
に結晶させて、逝った。生前、ひと言の言葉も発し得なかった少年が
生涯を懸けてうたいあげた命の絶唱。この詩が私たちに突き付けてくる
ものは重い。

人は皆、一個の天真を宿してこの世に生まれてくるという。その一個の
天真を深く掘り下げ、高め、仕上げていくことこそ、各人が果たすべき
人生のテーマといえるのではないか。

『我行精進、忍終不悔』・・・わが行は精進して忍んで終に悔いない。
ガギョウゾウゾ ソニゾウワ

『大無量壽経』の言葉である。永遠の人生のテーマがここにある。
ダムリョウゾ ユキョウ

やっちゃんの詩に胸がつまり、目頭が熱くなります。

今年も早いものでもう12月!!、思えば正月に“書初め”をして一年の目標～達成
すべきテーマを誓ってスタートしたはずなのですが・・・

しっかり目標に向けて努力したか! 一日一日を大切に過ごしたか! まったく恥ずかしい
ほど自信がありません。

今月しっかり一年を振り返って、反省すべきは反省し、新しい年は、やっちゃんの生き
様に恥じない覚悟を持った一年を過ごせるよう頑張ります!!

※今年も一年間「心の栄養剤」を読んで頂き、ありがとうございました。
来るべき新しき年も、引き続きご愛顧宜しく願います。

